

学校便り

プラハ日本人学校

TEL : 233 340 000

FAX : 233 322 424

Email : gakko@jpschool.cz

No.926 2018/11/19

JAPONSKÁ ŠKOLA V PRAZE

VLTAVA

学校教育目標

「自ら学び共に学ぶ、豊かな心と国際性あふれる たくましい児童・生徒の育成」

目指す子ども像

かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子

世界人になってほしい！

2学期の始業式の日、全校の児童生徒に音読の冊子を配布いたしました。北原白秋の「五十音」に始まり、鴨長明の「方丈記」まで19の音読の題材を冊子に入れてあります。平家物語や論語なども入れたいと思いましたが、今回は、断念いたしました。

始業式の話の中で、2学期の終業式では、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を全員で音読してもらいます。これが、校長先生からの宿題です。と伝えました。そして、「雨ニモマケズ」は、日本人の心を代表している作品の一つと言われていると、子どもたちに話をしました。

チェコという外国にいる子どもたちにとって、チェコやその他の外国のことを学習することはとても大切で、意義のあることです。しかし、日本人学校は、教師が日本語を使って授業を行います。そして、子どもたちは、その授業を聞いて、理解して、考えて、日本語で自分の考えを発表できるようになる学習を目指しています。そのような意味で、日本人の心を代表しているという宮沢賢治の作品を音読できるようになることは、とても大切なことであると考えています。

小学部や中学部の数名の子どもたちは、「校長先生、前の学校でも雨ニモマケズを覚えましたよ。」と私のところに別々に、報告しにきてくれました。そうなんです。日本国内のかなりの数の学校で、雨ニモマケズの音読に取り組んでいます。

グローバル人材の育成が叫ばれるなか、コミュニケーションの手段としての英語教育は最重要課題とも言えます。実際、チェコ語という大変難しい言葉に出会った子どもたちは、世界にはいろんな言語があるのだということを実感しています。そのような体験をするなかで、英語を身近に感じるだけではなく、親しみさえ感じた子どもたちは、少なくないと思います。英語学習の大切さも、実感してくれているのではないのでしょうか。

賢治は、ミンナニデクノボウトヨバレ、ホメラレモセズ、クニモサレズ、ソウイウモノニワタシハナリタイ、と結んでいます。この終わりの部分の、自分の信条や信念を曲げずに愚直に人のために生きようという賢治の考えには、共感を覚えます。子どもたちには、コミュニケーション能力に加えて、日本人がこれまで大切にしてきた優しい心、相手を思いやる心を持って「世界人」として活躍するような人になってほしいと思います。日本に居ても、また海外に生活の場を移しても、世界的な視野を持つ「世界人」となって、活躍する人になってほしいのです。

学習発表会が終わりました。あと、1か月ほどの間少しずつ音読の練習に取り掛かってください。

11月3日(土) 学習発表会、ありがとうございました。

学習発表会には、日ごろから日本人学校を支えていただいている多くみなさまに、ご参観をいただきました。ご家庭での練習や衣装、小道具などの準備で、保護者のみなさまには大変ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

子どもたちが、今回の学習発表会で学んだことを、これからの生活に生かして行ってほしいものです。

